

この経文は一切経に勝れた
 り。地走る者の王たり、師子
 王のごとし。空飛ぶ者の王た
 り、鷲のごとし。南無阿弥陀
 仏経等は、きじのごとし、兎
 のごとし。鷲につかまれては
 涙をながし、師子にせめられ
 ては腹わたをたつ。

(御書新版1737ページ・御書全集1310ページ)

通解

この法華經の経文は、一切經の中
 で最も勝れている。地を走る者の王
 である師子王のようである。空を飛
 ぶ者の王である鷲のようである。

南無阿弥陀仏の経などは、雉のよ
 うであり、兎のようである。鷲につ
 かまれては涙を流し、師子に責めら
 れては腸を断つのである。

 し し おう どう どう
 師子王のごとく堂々と前進！

よくわかる解説

皆さん、こんにちは！ レオです！ 御書を学ん
 で、心も体もスカッと爽快に、夏を乗り越えよう☆
 今回学ぶ「千日尼御前御返事（真実報恩經の事）」
 は、1278年（弘安元年）、日蓮大聖人が佐渡に
 住む女性門下の千日尼に送られたお手紙です。

当時、女性は罪深い存在であるとの偏見が強く、
 法華經以外の經典では成仏できないとされていま
 した。けなげに信心に励む千日尼に対して、大聖
 人は本抄で“女性の成仏こそが法華經の第一の肝心
 であり、自身の誓願の根本である”と示されてい
 ます。

今回の御文の中で大聖人は、南無妙法蓮華經の題
 目が、偉大であることを、動物に例えて分かりやす
 く教えられています。大地を走る動物の王さまとい
 えば、百獣の王「ライオン」。大空を飛ぶ鳥の王さ
 まといえば、気高く舞う「ワシ」。南無妙法蓮華經
 の教えは、ライオンやワシのように、他の經典より
 も優れている最高の教えであるとおっしゃっていま

す。

大聖人は、なぜ法華經が最高の教えとおっしゃっ
 ているのか——それは、この法華經こそ、全ての人
 が成仏できる「万人成仏」を説いた教えだからです。

私たちの実践に当てはめると、どうでしょう
 か。南無妙法蓮華經の題目を唱えることで、自身の
 心の中にある仏性という“無限の可能性”を引き出
 すことができます。その偉大な力があるからこそ、
 思ってもいないような自分へと成長し、前進するこ
 とができるのです。

池田先生はつづっています。

「私たちで言えば、『魂の内奥』にあるのが、『師子
 王の心』です。すなわち、仏界の生命境涯です。
 大海原よりも、天空よりも、もっと壮大な心の持ち
 主が皆さんにほかならない。心広々と『人間王者』、
 『生命王者』、『民衆王者』の気概で生きることができ
 るのです」

この夏、唱題に挑戦し、師子王のごとく堂々と前
 進して、充実の日々を送ろう！